



複合柵（金網柵＋電気柵）を活用した侵入防止対策

～サルからシイタケを守る～

サル被害が発生していた椎茸生産組織において、金網柵の上部に電気柵線を取付けた複合柵の実証圃を県内で初めて設置し効果を検証した。

その結果、サルの侵入防止効果が高いことが実証され、他の生産組織にも普及した。

地区	JAはぐくみくらぶち椎茸部
生産者数	12戸
農地面積	2箇所：990㎡、2,700㎡
主な作目	シイタケ
加害獣種	サル

背景

原木シイタケ栽培は天然に近い状態で生産されるため、手間がかかるが高品質なシイタケを生産することができる。しかし、ほだ場の多くは山林内にあるためサルをはじめとした野生獣に食害されることが多く、栽培をあきらめる生産者もみられていた。



サル食べ残しのシイタケ

事業内容

【主な取組】

- ◆ 侵入防止柵（金網柵＋電気柵）の効果検証
- ◆ 実証圃を活用した現地研修会による対策方法の習得

【取組経過】

- H22年 8月 電気柵実証圃設置及び対策研修会
 9月 実証圃設置
 12月 第1回現地研修会
 H23年 2月 第2回現地研修会



サル対策を研修

成果

- ◆ 複合柵はサルの侵入防止効果が高いことが実証され、被害は大幅に減少した。
- ◆ 県内のシイタケ生産3組織からの視察を受け、うち1カ所は同事業を実施することになり、対策手法の普及が図られた。

地区代表者 コメント

複合柵により被害は随分と減った。ただし、柵沿いの立木からサルが飛び込むこともあるので、伐木が必要な場所がある。



事後評価

指標	A	B	C	D
被害	減った (5-10割)	減った (-5割)	変わらない	増えた
出没	減った (5-10割)	減った (-5割)	変わらない	増えた
集落環境	改善した	やや改善した	変わらない	悪くなった
集落ぐるみの取組	出来ている	概ね出来ている	一部出来ている	出来ていない
対策実施	よく実施している	概ね実施している	一部実施している	実施していない
波及性	波及した	概ね波及した	一部波及した	波及していない
効果の実感	満足	やや満足	やや不満	不満

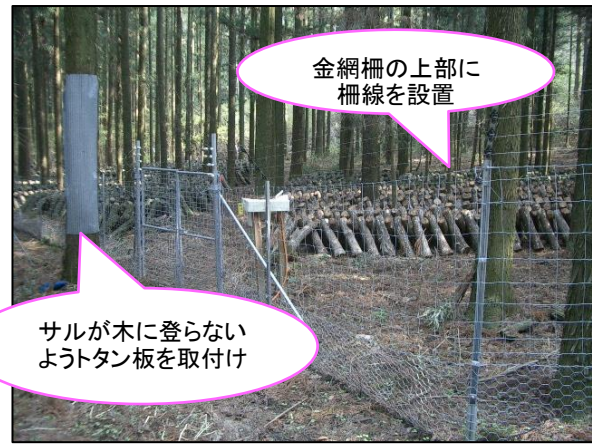
センター評価

複合柵の設置によりほだ場内の被害は軽減したが、集落ぐるみでの取組は充分ではなく、今後は地域ぐるみによる追い払い活動などが必要である。

課題

サル群れの動きが変化して近隣集落への出没が増えた場合、生産者間の連携体制の整備や具体的な対策を検討する必要がある。

また、複合柵は金網柵のコストが高いため、設置に当たっては補助事業を活用するための複数戸での導入や金網柵の代用として安価なワイヤーメッシュ柵を検討する必要がある。



サルが木に登らないようタン板を取付け

